

Ⅲ 「ななはけラボ」を中心とした環境の構成の工夫

「ななはけラボ」とは

「安心して自己発揮できる場」「興味・関心を広げることができる場」「これまでの経験を想起することができる場」として位置付け、幼児や小学校低学年が主に活用している部屋のこと。1年間を5期に分けた「ななはけラボ 期案」を作成し、それに基づいて各期の環境の構成を工夫してきた。



本章では、各期の「ななはけラボ」の環境の構成の工夫と、それに関連して5歳児・1年生・2年生の生活の場である保育室と教室の環境の構成について述べる。

1 「ななはけラボ」 1期 環境の構成について

ねらい

- ◎保育室と教室の要素を併せ持ち、どの子にとっても過ごしやすい部屋づくり
- 学校探検を軸にした合科的・関連的な学習を促す環境の構成
- 読書や春の自然、植物の栽培などに関心をもたせる選書

「ななはけラボ」の具体的な環境の構成のポイント

- ◎保育室と教室の要素を併せ持ち、どの子にとっても過ごしやすい部屋づくり

机や椅子、畳マットを点在させ、座って活動できるスペースと、靴を脱いで床で活動できるスペース、子どもが自由に配置を変えられるスペースを用意した。これらは場所や個数を固定せず、子どもが自分で選択しながら過ごせるよう配慮した。

常設の工作材料や道具については町屋幼稚園のうさぎ組・いるか組の保育室を参考にした。

- 1年生の学校探検を軸にした合科的・関連的な学習を促す環境の構成

国語・算数・生活科の要素がバランスよく内包されるような教具の配置により、1年生が遊びの中で各教科の学びにつながる発見ができるようにした。

学校探検で「ななはけラボ」を発見した子どもたちが、活動の中で「どんなもの（道具）があるのか」「この部屋で何ができるのか」を探る中で、国語や算数、生活科の学習につながる様々な要素を見付けられるように教具を置いた。

例：国語⇒濁音・促音・撥音の含まれる楽器（もっきん・てっきん・すず）

算数⇒教具を10より小さい数で揃える

生活⇒「がっこうたんけんまっぷ」、植物の栽培に関する本、春の自然の本や掲示

※1期は入学して間もない1年生の児童に焦点を当てた環境の構成をしている（5歳児・2年生が使用する際には、活動の趣旨によって環境の構成を変える）。

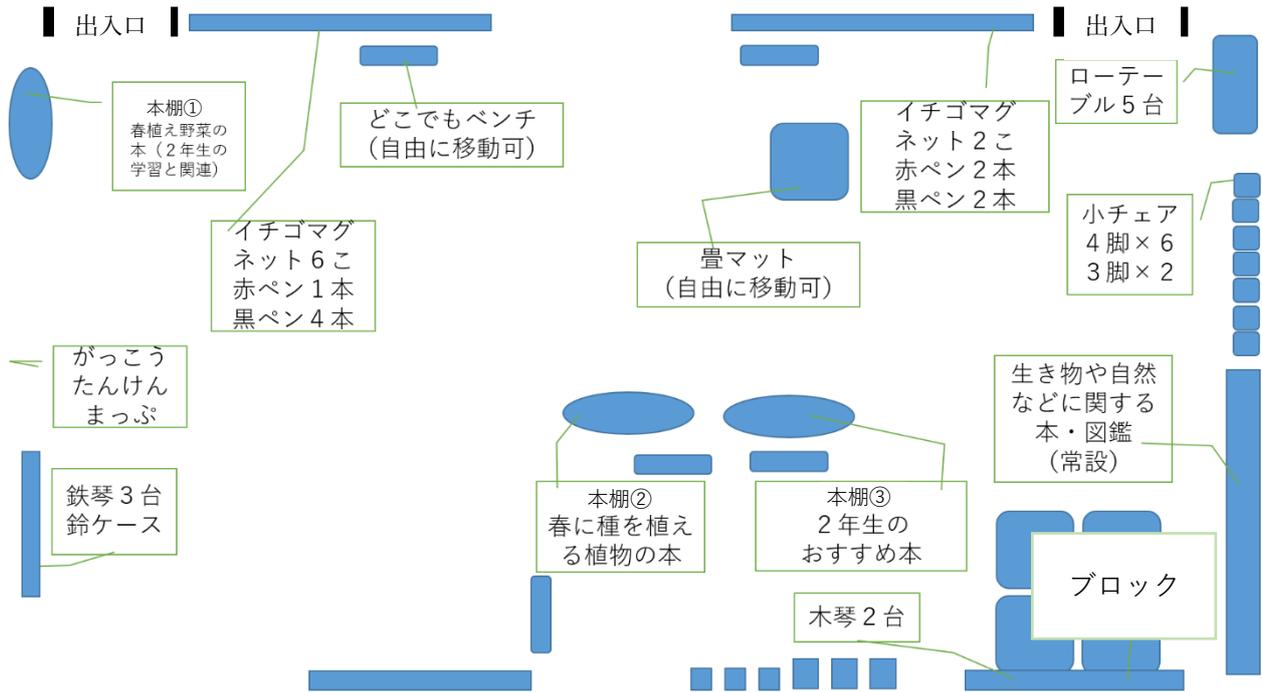
- 読書や春の自然、植物の栽培などに関心をもたせる選書

本棚①2年生のおすすめ本⇒読書への関心をもたせる。

本棚②春の植物の栽培に関する本⇒1・2年生が植物の栽培をする、世話の仕方や成長について調べる学習に活用。（春植えの花に関する棚・春植えの野菜に関する棚）

展示①春の自然や行事の本⇒春の動植物や節句・行事などに関する本の展示
カラーボックス（常設図書）⇒校内の環境（ビオトープや緑の小道）でみられる動植物に関わる本や図鑑、文字・数・生活に関連した図鑑など。

「ななはけラボ」の環境図（1期）



保育室・教室の環境の構成の工夫

【5歳児】

- 新しい保育室で安心して楽しく生活できるよう、昨年度まで親しんでいた遊具や用具、年長組になって新しく使うことができるようになった遊具をバランスよく設定した。
- 自分たちで生活を進めていく気持ちをもつことができるよう、幼児と遊具の置き場所を考えたり、表示を作ったりした。



【1年生】

- 保育室のように、床に座って活動できるスペースを作った。今年度は朝の支度の終了後や作業時間に差が出た際などの隙間時間に自由に活動したり交流したりできるように、豊マットにおもちゃや折り紙、絵本などを置いた。
- 教室内外の飾りつけは、前年度の1～5年生が心を込めて作った。



電子黒板横のホワイトボードは、1日の見通しを立てやすいように時間割を絵や時計マークなどを描き加えながら表示した。4月は固定時間割に縛られず、その日のタスクと特別教室が使える時間、健診などの動かさないスケジュールを知らせ、子どもたちと一緒にその日の時間割を組み立てた。

【2年生】

- 生活の「めざせ 野さいづくり名人」で育てたい野菜について、「ななはけラボ」にある図書を用いて調べ、いつでも見られるようにブックトラックにも置くなどした。
- 1年生の時と同様、折り紙や牛乳パックなどすぐに手に取れるように教室内に置いた。

2 「ななはけラボ」 2期 環境の構成について

ねらい

- ◎初夏の自然や行事を軸にした選書や活動スペースの構成
- 進級後の生活に慣れ、自分の興味・関心に応じて遊びや学びを選んで活動に取り組むことができるようにする。
- 感じたことや考えたことを文字や言葉で表現し合うための教具の準備

具体的な環境の構成のポイント

- ◎夏の自然や行事を軸にした選書や活動場所の構成
 - 小学生のビオトープ学習が先行し、幼児がそれを受けて関心をもち、自分たちも見付けたものを製作して飾ってみたいという遊びに活かすことをねらっている。サーバー横の飾り棚・ホワイトボードに七夕や6・7月の季節・自然の本を表紙が見えるように展示し、部屋の対角の位置に笹の葉を置き七夕飾りを行った。
 - 本棚①⇒1・2年生の国語教科書の物語の単元に関連する本と説明文に関連した科学読み物
 - 本棚②⇒初夏の水生物についての本・図鑑
 - 本棚③⇒初夏の昆虫についての本・図鑑
 - 壁面カラーボックス⇒初夏の植物についての本・図鑑

- 進級後の生活に慣れ、自分の興味・関心に応じて遊びや学びを選んで活動に取り組むことができるようにする。

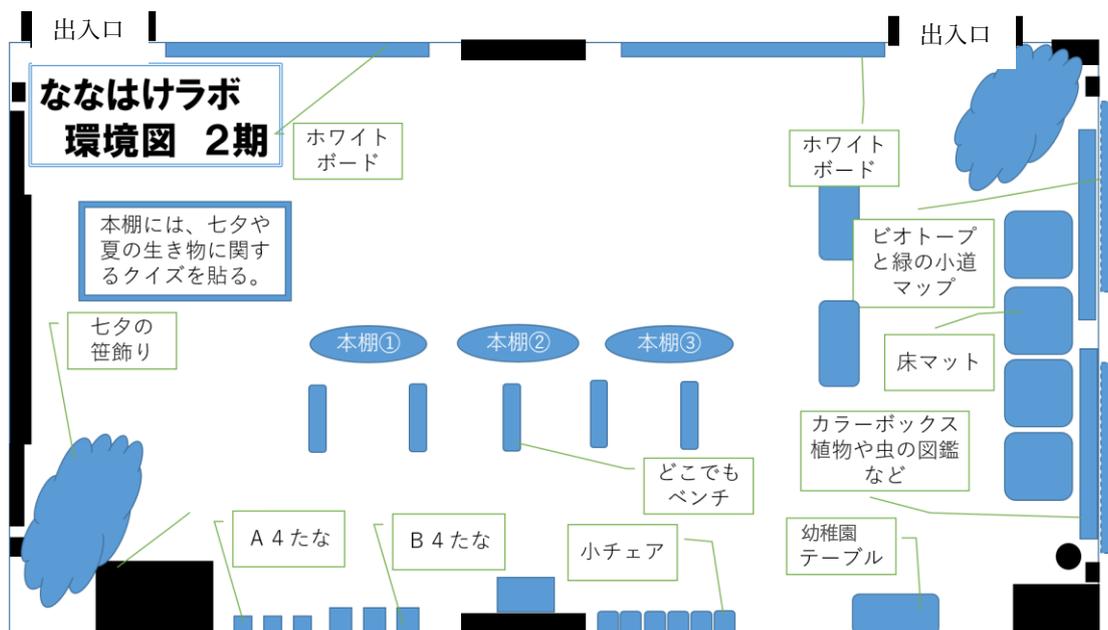
主にビオトープ学習を中心に、個人の関心に応じて調べ学習をしたり、全体で活動の振り返りをしたりできるよう、本棚やベンチで仕切りを作り、中央の床は広く空間を取った。また、机や椅子は子どもの必要感に応じて自由に配置できるようにした。

- 感じたことや考えたことを文字や言葉で表現し合うための教具の準備

主眼を置くのはビオトープでの活動の蓄積である。子どもたちの気付きや思いが言語化され、視覚として残せるような教具の準備をした。

- ・校内の自然環境（ビオトープや緑の小道）のマップ（床→壁面）
- ・短冊や吹き出しなど、気付きや言葉を蓄積するための用紙

「ななはけラボ」の環境図（2期）



保育室・教室の環境の構成の工夫

【5歳児】

- 園庭や小学校のビオトープで見つけた生き物に継続して関心をもてるよう生き物のコーナーを作り、図鑑や虫眼鏡、虫かごなどを用意した。
- 製作途中の七夕飾りを保育室や廊下に飾り、他児の取組や工夫にも意識を向けられるようにした。



【1年生】

- 廊下のブックトラックにはアサガオの栽培・観察に関連する本を置いた。毎日のアサガオの世話を通した付きに応じて本を手に取り、生長の様子に気付いたり、「支柱を立てよう」などという解決の見通しを立てたりするためである。
- 教室内には「アサガオミッション」を掲示して、ドキュメンテーション形式で自分たちの学びの様子を把握できるようにした。

【2年生】

- 生きもの調べで、自分の関心がある生きものについて図書館で調べ、その本をブックトラックに置くことで、友達が選んだ生きものについても関心をもつことができるようにした。
- 国語科「スイミー」の作者 レオ＝レオニの発展読書についてもブックトラックに置き、いろいろな作品に触れられるようにした。

3 「ななはけラボ」 3期 環境の構成について

ねらい

- ◎身近なものの形に注目できるような教具・掲示物の準備
- 学級や学年での活動に主体的に関わり、友達との協同的な学びの楽しさを味わえるようにする。
- 初秋の自然や行事を軸にした選書や活動スペースの構成

具体的な環境の構成のポイント

- ◎身近なものの形に注目できるような教具・掲示物の準備
- まる、さんかく、しかく探しの壁面掲示（5歳児）
- 形に関する様々な知育おもちゃ



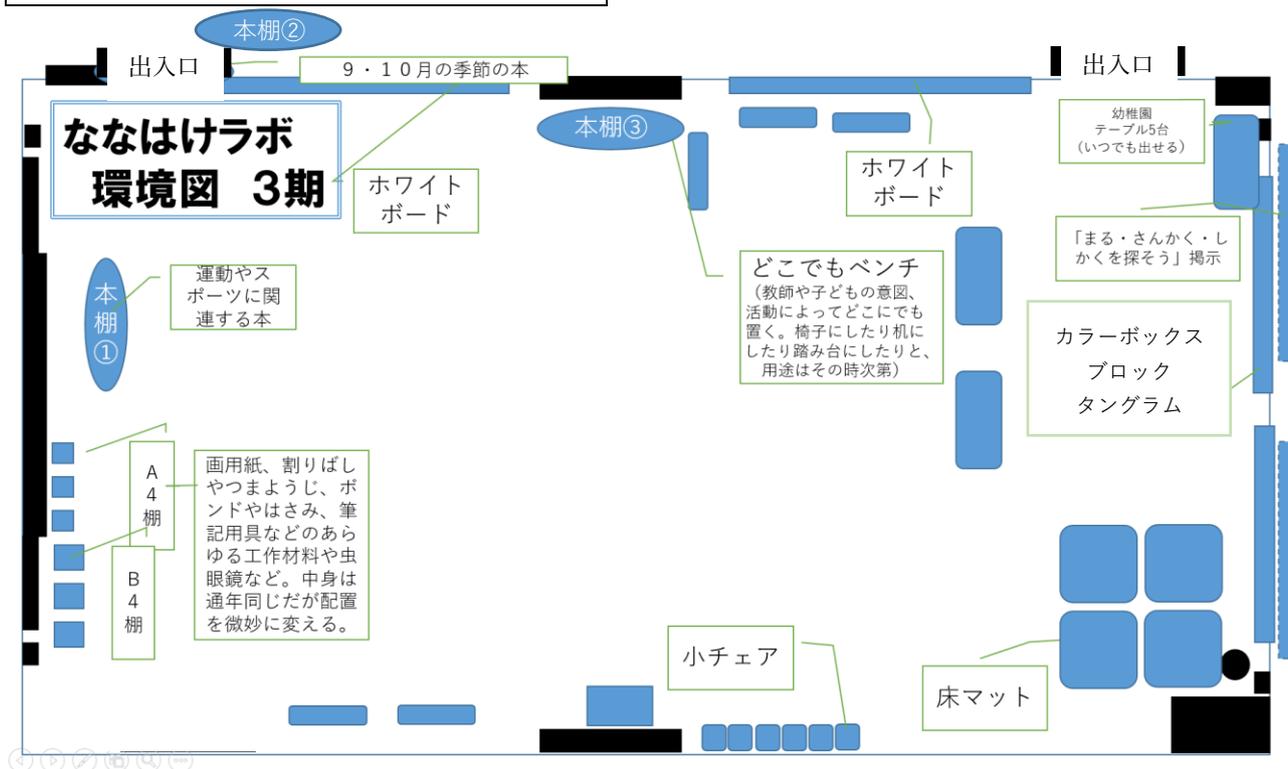
- 学級や学年での活動に主体的に関わり、友達との協同的な学びの楽しさを味わえるようにする。

2期に取り組んだビオトープ学習を中心に、季節の変化や自然の移ろいに気付いたり、さらに詳しく調べたりするための本の配置をした。また、幼児が運動会のために万国旗制作をしたり、身近なものの形について調べたりする単元を行ったりするための掲示物も作成した。

○初秋の自然や行事を軸にした選書や活動場所の構成

- 9、10月の季節の本や十五夜などに関連した本や飾り（ラボ前廊下）
⇒（期の学習内容と季節の行事に直接関わりがないため廊下に設置）。
- 本棚①⇒運動に関する書籍
- 本棚②⇒形に関する掲示
- 本棚③⇒動植物や秋の自然のものに関連する書籍
- 壁面カラーボックス⇒形に関連したおもちゃの設置

「ななはけラボ」の環境図（3期）



保育室・教室の環境の構成の工夫

【5歳児】

- 遊びや生活の中で見つけた丸・三角・四角の形のものを幼児が絵に描き、関心をもち合えるように掲示した。
- 製作した万国旗を保育室に飾り運動会に期待を高められるようにするとともに、友達の商品を見合ったり、国旗の中のいろいろな形に関心をもったりできるようにした。



【1年生】

- 教室前廊下のブックトラックや展示用の机には、草木染や押し花などの自然遊びに関するものを置いた。
- 子どもたちのアイディアで、色水遊びや押し花などの遊びを校庭で行った。アサガオだけではなく、校内の野草のオシロイバナや、用務主事が栽培しているキバナコスモス・大葉などの植物も活用した。



【2年生】

- 2期に行った「まちが大すき たんけんたい」で用いた地域の地図を掲示し、3期の学習である「えがおいっぱい たんけんたい」で、さらに詳しく調べてみたいお店や施設に興味をわくようにした。
- 4期の「作って ためして」での、おもちゃ作りの廃材集めを進める。



4 「ななはけラボ」 4期 環境の構成について

ねらい

- ◎身近な廃材や自然物を活用して遊んだり、遊びに使うものを工夫して作ったりするための
教具の準備
- イメージを友達と共有し、動きや言葉、作品や音楽などで表現したり、演じたりすることができるようになる。
- 秋・冬の自然や行事を軸にした選書や活動スペースの構成

具体的な環境の構成のポイント

- ◎身近な廃材や自然物を活用して遊んだり、遊びに使うものを工夫して作ったりするための
教具の準備

1年生は秋の自然物を利用した遊びに親しみ、2年生は身近な廃材を活用し動力を生かしたおもちゃ作りを楽しむのが4期の生活科の中心となる。また、1・2年生それぞれで、それらの経験を生かして話したり書いたりする学習を国語科で行う。それに関連して、計画を立てる場、工作をする場、共有する場が「ななはけラボ」内で作れるように工夫した。

- ※5歳児は12月上旬に劇遊びの発表会があり、「ななはけラボ」に通う機会は少ないため、小学生の活動がある程度落ち着いた際に、作品を鑑賞したり、小学生が作ったおもちゃで遊んだりすることを楽しむ。

- イメージを友達と共有し、動きや言葉、作品や音楽などで表現したり、演じたりすることができるようになる。

幼稚園5歳児は劇遊び、小学校は音楽会を控えている。友達とイメージを共有するために言葉や動きで伝え合ったり、それを劇や合唱・合奏などの形で表現したりすることを楽しくめるように、各教室の環境を整えるとともに、「ななはけラボ」内では作品製作の過程を友達と共有したり、学年をまたいで鑑賞しあったりできるように場作りをした。

- 秋・冬の自然や行事を軸にした選書や活動スペースの構成

本棚①⇒秋の自然物（どんぐり・木の実・落ち葉など）の工作、秋の生き物の本

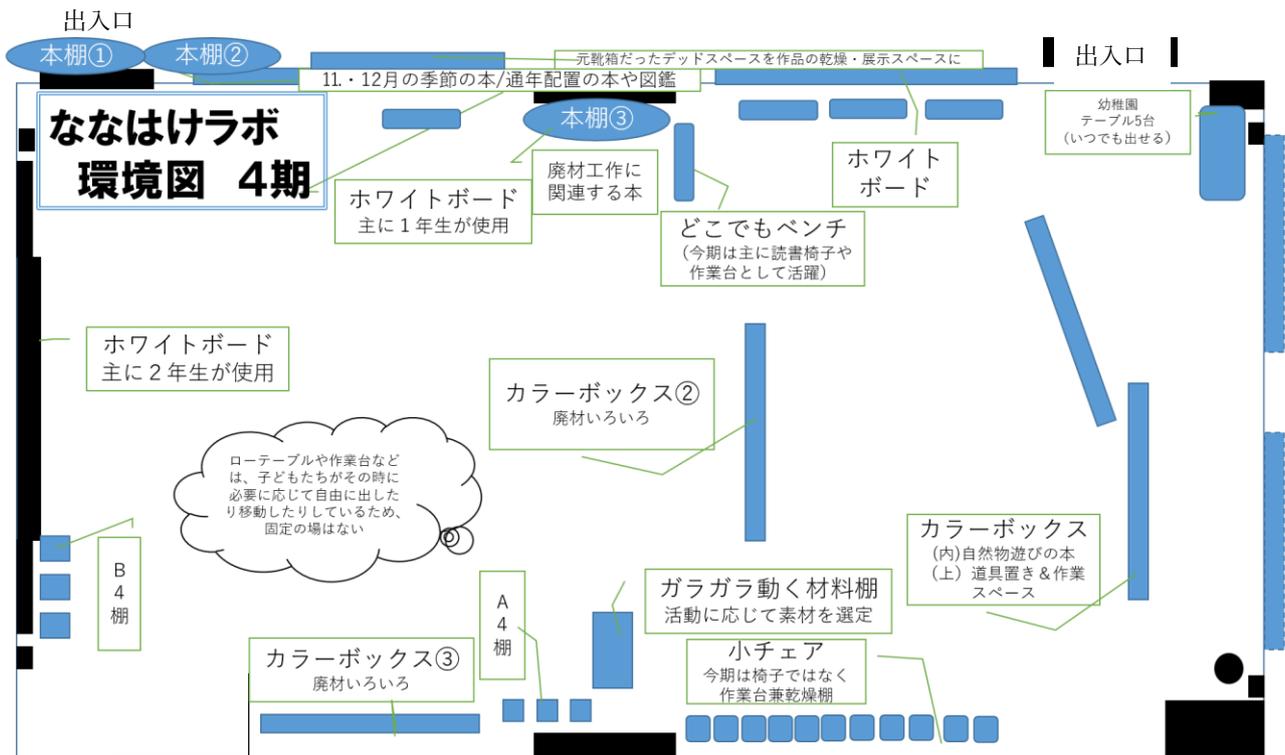
本棚②⇒動物の飼育、観察に関わる本

本棚③⇒廃材遊びに関する本（主に動力を利用したおもちゃ作りについてのもの）

9、10月の季節の本や十五夜などに関連した本や飾り（「ななはけラボ」前廊下）

11、12月の季節の本（「ななはけラボ」前廊下掲示）

「ななはけラボ」の環境図（4期）



保育室・教室の環境の構成の工夫

【5歳児】

- 秋の自然物に親しみをもち遊びに取り入れられるようなコーナーを設定した。ドングリを大きさや種類別に分けられるような入れ物を置いたり、見つけたものを本などで調べられるよう関連する図鑑や本を準備したりした。
- 劇遊びの道具や音楽などを用意し、遊びの中で自分たちで動きや言葉を考え、楽しめるようにした。

【1年生】

- 教室前廊下のブックトラックや展示用の机には、秋の自然物やそれに関連する本草木染や押し花などの自然遊びに関する本と、国語「じどう車ずかんをつくろう」に関連する調べ学習の本を置いた。
- 子どもたちがどんぐりや松ぼっくりを集めてきて「みんなで集めたい」と言い、展示用机に秋の自然物を集めるためのスペースを作った。

【2年生】

- 2期と同様に国語科「お手紙」の作者 アーノルド＝ローベルの発展読書も置き、興味関心がわくようにした。